刑法各論Ⅰ

科目ナンバリング　CRL-201
選択　　2単位

堀田　晶子

1. 授業の概要（ねらい）

刑法各論の授業では、各犯罪の特徴や違いを明らかにするとともに、それらの相互関係を学びます。春期は個人法益に対する罪の中から、生命・身体に対する罪、自由に対する罪、名誉に対する罪を取り上げます。

2. 授業の到達目標

①各犯罪の成立要件や相互関係を理解し、具体的な例を挙げて説明できる。
②刑法各論の代表的な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、自分の言葉で説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価します。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書
以下のテキストをお勧めします。本には相性があるので、この中から自分に合った本を選んでください。
大塚裕史・十河太朗他　『基本刑法Ⅱ 各論〔第2版〕』（2018）　日本評論社
井田良　『入門刑法学 各論〔第2版〕』（2018）　有斐閣
井田良・佐藤拓磨　『よくわかる刑法〔第3版〕』（2018）　ミネルヴァ書房
西田典之著・橋爪隆補訂　『刑法各論〔第7版〕』（2018）　弘文堂
参考文献
西田典之・山口厚他　『判例刑法各論 第7版』（2018）　有斐閣
井田良・佐藤拓磨　『新・論点講義シリーズ2 刑法各論 第3版 』（2017）　弘文堂
十河太朗・豊田兼彦他　『刑法各論判例50!START UP』（2017）　有斐閣
山口厚・佐伯仁志編　『刑法判例百選Ⅱ 各論〔第7版〕』（2014）　有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しながら、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用してください。それでもわからない場合は、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

①刑法総論をすでに履修済み、あるいは並行して履修していることが望ましいです。
②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

【第1回】　オリエンテーション：刑法各論を学ぶにあたって―総論と各論の違い―
【第2回】　生命に対する罪①　人の始期・終期
【第3回】　生命に対する罪②　殺人罪／自殺関与・同意殺人罪の基本構造
【第4回】　生命に対する罪③　演習問題：偽装心中（論文作成トレーニング）
【第5回】　生命に対する罪④　DVD（予定）※ 変更の場合あり
【第6回】　身体に対する罪①　暴行罪と傷害罪
【第7回】　身体に対する罪②　演習問題：暴行罪と傷害罪
【第8回】　自由に対する罪①　逮捕・監禁罪
【第9回】　自由に対する罪②　略取・誘拐罪
【第10回】　自由に対する罪③　住居侵入罪
【第11回】　自由に対する罪④　脅迫罪・強要罪
【第12回】　名誉に対する罪①　名誉毀損罪／侮辱罪の基本構造
【第13回】　名誉に対する罪②　名誉毀損罪―公共の利害に関する場合の特例―
【第14回】　名誉に対する罪③　演習問題：名誉毀損罪と侮辱罪
【第15回】　春期のまとめと試験（予定）